

巻頭言

AI人材の育成



大谷 紀子

(東京都市大学メディア情報学部)

筆者が人工知能について初めて学んだのは、大学3年のときに受講した「人工知能基礎論」という授業においてでした。ご担当は人工知能学会第4代会長である故・志村正道先生で、初回授業がどのような話題から始まったのかはすっかり忘れてしまいましたが、黒板の左下に「IJCAI/AAAI」と書いて、「これは『イチカイ』、これは『トリプルエーアイ』と読む」と説明なさっていたことだけはなぜか鮮明に覚えています。あれからちょうど30年経った2021年、未曾有の事態によりIJCAIはオンラインで開催されました。IJCAIだけでなく、他の学会や会議、授業、飲み会、さまざまなイベントに至るまでオンラインで実施されるようになった状況には、一刻も早い事態の終息を願うばかりですが、IT技術の進歩と情報通信機器の普及という観点では感慨深いものがあります。

もうひとつ、30年前と今で大きく異なるのは、何といてもAIに対する社会の注目度です。「〇〇する人工知能」、「AI搭載××」という宣伝文句の付いた製品やサービスが頻繁に目に飛び込んできます。しかし、どこに人工知能の技術が使われているかがわからないものもあります。コンピュータで実行される便利な処理はすべて人工知能であり、人工知能を使えば何でもできるというような発言を耳にすることもあります。「人工知能の研究をしている」と言うと、「どんなビッグデータを使っているんですか?」、「ディープラーニングを研究しているんですよね?」などの質問を受けることもあり、「人工知能」の意味や技術が正しく理解されていないことを実感します。また、情報処理推進機構の「AI白書2020」によると、AIを既に導入している企業は4.2%に留まり、AI導入の検討における課題として「自社内でのAIについての理解の不足」を挙げている企業が55.0%、「AI人材の不足」を挙げている企業が34.6%という調査結果が得られています。以上の状況を鑑みると、ITおよびAI技術の進歩と情報通信機器の普及という好条件下で起こった第3次AIブームをより大きな社会発展の契機とするためには、AIを正しく理解し、活用できる人材の育成が喫緊の課題と考えられます。

内閣府が2019年3月に取りまとめた「人間中心のAI社会原則^{*1}」では、AIを有効かつ安全に利用できる社会の構築が必要であることが示されており、「AI-Readyな社会」への変革のためのAI社会原則のひとつとして「教育・リテラシーの原則」が掲げられています。また、2019年6月に策定された「AI戦略2019^{*2}」では、教育改革が一番目の項目に挙げられており、すべての高等学校卒業者が数理・データサイエンス・AIに関する基礎的なリテラシーを習得することを目標としています。これらを受け、2019年度には、リテラシーレベルの教育プログラムの認定制度が検討されました。すべての大学・高専生(約50万人卒/年)がデジタル社会の「読み・書き・そろばん」に相当する数理・データサイエンス・AIの基礎を身につけるための教育を対象とするものです。さらに、2020年度には、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための基礎力の習得を目指す応用基礎レベルの教育プログラムの認定制度も検討されています。

一方、経済産業省では、「未来の教室」実証事業が進められています。人間がAIと共存する社会で必要となる「創造的な課題発見・解決力」を誰もが身につけられるような「学びの社会システム」の構築を目指すものです。学習の個別最適化、文理融合(STEAM)、社会課題解決を主なテーマとして、EdTechを活用し、効率的な知識習得と創造的な課題発見・解決能力育成を両立した新たな学習プログラムの開発・実証が進められており、ポータルサイト「未来の教室～learning innovation～」において進捗状況や関連情報が発信されています。2020年度の「STEAMライブラリー」事業では「AIに関する理論/実践活用講座」が採択され、AIの最前線のテーマに関する理論から、実際の社会・ビジネスにおける実践を網羅したAI基礎講座が公開される予定です。

志村先生の「人工知能基礎論」は選択科目でしたが、筆者が担当している人工知能の授業は上記の状況を受けて2020年度入学生より必修科目となりました。筆者に与えられた機会を最大限に活用し、日本におけるAI人材育成の一端を担えればと思います。そして、人工知能学会のさまざまな取組みが、AI技術のさらなる向上や社会への供用に加え、AI人材の育成にも大きく寄与するよう、会員の皆様とともに尽力していきたいと考えています。まずは、「人口知能」という誤記が世の中からなくなることを期待して……。

*1 <https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/jinkouchinou/pdf/aigensoku.pdf>

*2 <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tougou-innovation/pdf/aisenryaku2019.pdf>